

商業科目「マーケティング」における
専門用語の理解を支援するための教材「用語ツリー」の作成と活用

教育情報推進係

秋場 武志（高等学校教諭）

高橋 邦明（高等学校教諭）

I テーマ設定の理由

経済のサービス化やグローバル化により、現在の経済社会を取り巻く環境は毎日大きく変化している。新しい学習指導要領の教科「商業」の目標には「経済社会の発展を図る創造的な力と実践的な態度を育てる」と掲げられ、商業を学ぶ生徒にとっては、企業経営の基本原則や消費者の購買行動に関する専門的な知識を身に付けることが益々重要となってくる。

協力校では、簿記会計分野や経営情報分野の科目においては教材や指導法が充実し、生徒にとって学習内容を理解しやすく、教師にとっても指導しやすい。しかし、「マーケティング」や「商品と流通」などの流通ビジネス分野の科目は、理論的な内容が中心であるために、教科書中心の講義形式の授業になりがちである。また、専門用語が多く生徒にとって学びにくく、生徒の実態にあった教材が乏しいため、教師にとっても指導しにくい面がある。例えば、一つの専門用語の説明文に別の専門用語が使われていて、その意味を理解しにくかったり、一つ一つの専門用語が示す内容の繋がりを捉えにくかったりする。

これからの経済社会でビジネス活動をしていくためには、流通ビジネス分野で学ぶ知識が必要である。特にその中でもマーケティングについての意義や役割を理解させることが大切である。そのためには、マーケティングの学習内容における専門用語を読み解く力を身に付けさせなければならない。

そこで、「マーケティング」の専門用語の意味を分かりやすい言葉で説明し、その内容や別の専門用語との繋がりを、視覚的に示す教材を作成し、授業で活用することで生徒の専門用語の理解を支援できると考え本主題を設定した。

II 研究のねらいと課題解決策

1 研究のねらい

商業科目「マーケティング」における専門用語の理解を支援するための教材「用語ツリー」を作成し授業で活用する。

2 課題解決策

(1) 教材「用語ツリー」の作成

- ① 教科書の索引から調べた「マーケティング」で学習する専門用語 350 個を生徒に分かりやすい言葉で説明し、データ化して「用語集」を作成する。（用語名、分野、内容などに分類）
- ② 教科書に重要用語と記されている 150 個の専門用語うち、核となる専門用語として 50 個の専門用語を「用語集」の中から選び出す。
- ③ 核となる専門用語を中心に関連性のある専門用語を結びつける。
- ④ 核となる専門用語をもとに一つ一つの専門用語の繋がりを視覚的に捉えられるように図表化して「ツリー」を作成する。

(2) 授業での教材「用語ツリー」の活用

協力校において、作成した教材を活用して、「マーケティング」の授業を行う。

Ⅲ 課題解決のための具体的実践

1 「用語ツリー」の概要

「用語ツリー」は教師がマーケティングの授業で専門用語を説明する際に、提示装置を使って用語の意味や繋がりを視覚的に提示し、生徒の理解を支援する教材である。本教材はHTML形式で作成し、ブラウザで見ることができるようにした。

(1) 「用語ツリー」の構成

本教材は、専門用語の意味と用語同士の繋がりを示す「ツリー」の部分と「用語集」の部分で構成した(図1)。「ツリー」の部分には、商業科目の「マーケティング」で学習する核となる専門用語を、一本の木の幹に例えて、関連する個々の専門用語を枝で繋がる葉っぱに見立てた。葉っぱの先に専門用語の意味を果実に例えて説明している。専門用語と専門用語の繋がりは、HTMLのリンクの機能を用いて、相互に行き来できるようにした。「用語集」の部分では教科書の単元を元に各章ごとの専門用語とその意味を一覧表にまとめて整理した。

(2) 「用語ツリー」の内容

本教材は、教科書の索引から調べた「マーケティング」で学習する専門用語約350個のうち、特に重要用語とされる150個の中から核となる専門用語50個を絞り込み、この核となる用語の意味を示すとともに他の専門用語との繋がりを図示した。専門用語の意味は、分かりやすい言葉で説明し、別の専門用語との繋がりを視覚的に示した(図2)。専門用語の意味の理解を深めるとともに身近に感じることができるように、必要に応じて説明に静止画や動画を加えた。

2 「用語ツリー」の活用

本教材は教室で普段の「マーケティング」の授業を行う中で、専門用語に対する生徒の興味や関心を高めたり、知識や理解を深めたりする際に活用する。具体的には、マーケティングの専門用語が出てきたときに、本教材のメニューからツリーを選び、核となる専門用語を手がかりに関連する用語の意味と繋がりを表示させる。言葉による説明だけでは、十分に理解できない専門用語については、必

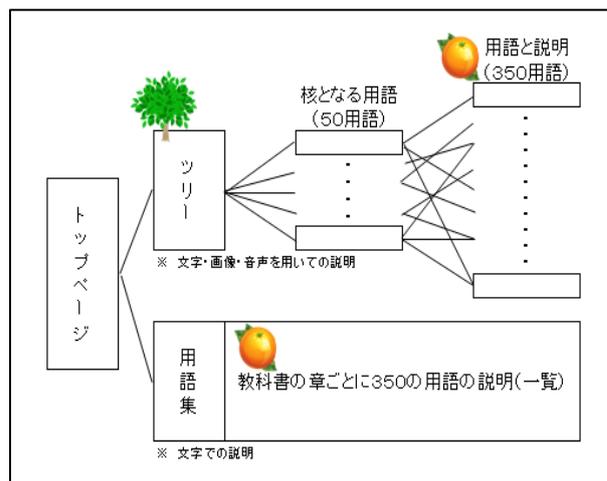


図1 教材「用語ツリー」の構成

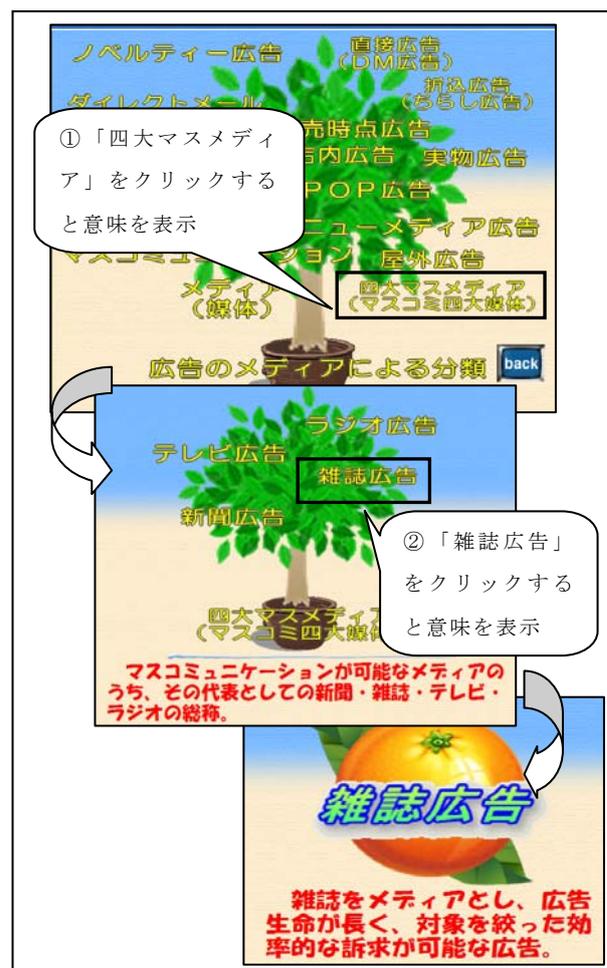


図2 核となる専門用語とツリー

要に応じて専門用語の説明に添付している静止画や動画を用いて、専門用語を視覚的にとらえたり、専門用語の内容をイメージさせたりする。

(1) 授業実践1 (協力校A)

協力校Aではマーケティングを3単位で履修している。本教材を単元「販売促進」における小単元「広告」で活用した。本時のねらいは「広告の意義や役割について関心を持ち、広告の種類とその果たす役割を理解する。」ことである。本教材は、広告の種類について「メディアによる分類」として四大マスメディア、ニューメディア広告、直接広告、屋外広告、実物広告等の専門用語を説明する際に提示装置を用いて提示した(図3)。屋外広告について説明する際には、地域の大型小売店の店舗壁面のネオンサインの静止画を用いることにより、専門用語を身近なものとして感じさせた。また、実物広告の説明では、駅の通路の壁に埋め込まれた本物のゲーム機の静止画を用いることにより、生徒が経験したことのない広告の手法を知り、企業の消費者に対する購買意欲向上のための工夫を理解させた。



図3 屋外広告の説明をしている場面

協力校Aにおける授業後のアンケート(対象生徒数30人)から、授業中の専門用語の理解についてツリーを活用しない以前の授業に比べ「理解している」「よく理解している」と回答した生徒が約19%増加した(図4)。特に、よく理解していると回答した生徒は24%増加した。また、アンケートの自由記述には「分かりやすかった。(10名)」「楽しかった。(6名)」「画像が見られて良かった。集中できた。(6名)」「興味がわいた。(4名)」という回答があった。以上のことから、「マーケティング」の専門用語の理解の支援ができたと考える。

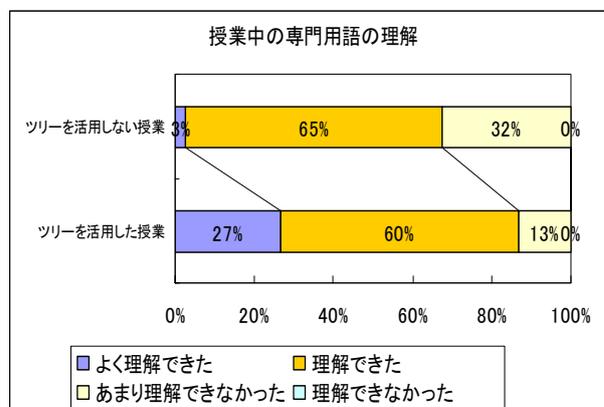


図4 アンケート結果(協力校A)

(2) 授業実践2 (協力校B)

協力校Bでは、「マーケティング」を2単位で履修している。3単位での履修に比べ授業の中で専門用語をじっくり理解するだけの時間が必ずしも十分に取れないという面もある。本教材を単元「販売促進」における小単元「店舗の立地と設計」で活用した。協力校Bでは本教材の操作性も検証するために、研修員と協力校Bの教員とのチームティーチングで授業を行った。協力校Bでは、「マーケティング」を2単位で履修しているため、授業の中で専門用語をじっくり理解するだけの時間が必ずしも十分に取れないという面も



図5 買回品の説明をしている場面

ある。本時のねらいは「小売店の店舗の立地の重要性について、取扱商品や検討事項について理解する。」ことである。本教材は、小売店の取扱商品について「販売慣習による分類」としての「最寄品」「買回品」「専門品」等の専門用語を説明する際に提示装置を用いて提示した(図5)。日常生活の中ではあまり使うことのない「最寄品」「買回品」「専門品」という用語について説明する際に、本教材を用いて具体的な絵や写真等の静止画を提示したことにより、それぞれどのようなものか視覚的に理解させることができた。また、本教材の分かりやすい言葉を用いた説明を提示することにより、教科書の説明を補い、専門用語の理解を助けることができた。

協力校Bにおける授業後のアンケート(対象生徒数40人)から、授業中の専門用語の理解について「用語ツリー」を活用しない以前の授業に比べ「理解している」「理解できた」と回答した生徒が約25%増加した(図6)。特に理解できたと解答した生徒は、23%増加した。また、アンケートの自由記述には、「いつもより分かりやすかった。(5名)」「用語と用語の意味が出てきて繋がりが普通より分かる。(3名)」「各章ごとに専門用語が分かれていて説明も分かりやすかった。(1名)」という回答があった。また、「まわりが明るくて見えづらかった。(4名)」という機器の設定環境に関する記述もあった。ティームティーチングで指導にあたった協力校Bの教員からは、「教科書だけでは、説明不足な専門用語を分かりやすく説明することができた。」「少ない単位数でもたくさんある専門用語を短い時間で説明し理解させるために有効だ。」「静止画を提示することにより、教室では実物を見ることができない実際の物を見ることができた。」「普段より興味を持って取り組んだ生徒の姿が見られた。」「専門用語と専門用語の繋がりを示すことで用語同士の繋がりがこの章に出てくる専門用語をまとめさせることができる。」「マウスで専門用語をクリックするだけで、先に進めたり戻ったりできるので、用語同士の繋がりを説明する際には具合が良い」などの本教材を活用しての効果や、「教材を活用する際のパソコンやプロジェクタのセッティングに時間が掛かる」という課題についての意見をいただいた。

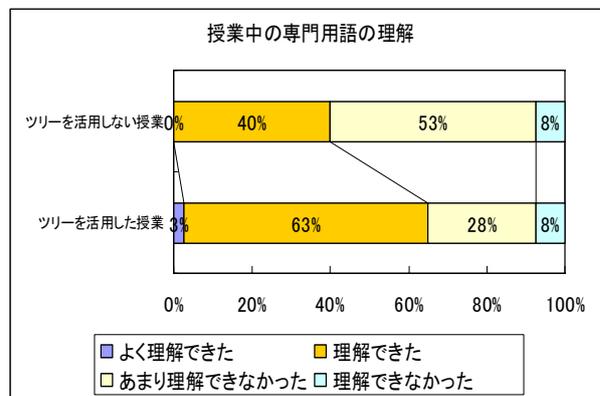


図6 アンケート結果(協力校B)

IV 研究の成果と課題

1 成果

- 専門用語の意味を、分かりやすい言葉でスクリーン上に提示することで、生徒は専門用語を理解しやすくなった。
- 専門用語の説明に画像等を添付して提示したことで、より興味・関心が増加し、難しい専門用語を身近に感じさせることができた。
- 「ツリー」を示すことで、専門用語と専門用語の繋がりを視覚的にとらえることができた。
- 提示教材を活用することによって、生徒の視点が教科書とノートから前を見て授業を受けるようになった。

2 課題

- 教材の操作性をさらに向上させ、必要な専門用語を素早く提示できるようにする。
- 画面上の色使いを工夫して見やすくする必要がある。
- 専門用語をより身近に感じることができよう動画を取り入れる。
- 本教材の活用にあたり、スクリーンに提示する教材と板書との連携を工夫する必要がある。